

那須御用邸とともに歩んで

御用邸は、天皇皇后両陛下はじめ、皇族方のご静養の場として使用されており、本町のほかに神奈川県葉山御用邸と静岡県須崎御用邸があります。那須御用邸の歴史は葉山御用邸の次に深く、本町は那須御用邸とともに発展したと言っても過言ではありません。

昭和、平成、そして新たな時代へと向けて、本町が那須御用邸とともに歩んできた歴史をご紹介します。

茶臼岳を望むゴヨウツツジ
ゴヨウツツジは愛子様のお印となっています。

那須御用邸の沿革

昭和33年2月6日、那須御用邸皇宮巡査部長駐在所の広瀬銀次郎が黒磯警察署長に宛てた書類には、那須御用邸の沿革が記されており、その詳細を知ることができます。

大正の末期男爵東久世秀雄内匠頭時代に東宮殿下の御為に那須平原の地に御用邸新造の起案あり、再度の下檢分の結果林野局管理御料地の一部栃木県那須郡那須村大字湯本の地を下して御造営の事可決し大正十四年秋より工事に着手す。

(那須温泉史より)

東宮殿下とは、当時の皇太子で後の昭和天皇を示します。那須御用邸は昭和天皇の御成婚後の御静養の場として建てられました。本邸は着工から1年後の大正15年7月15日に完成し、昭和天皇は翌8月に1カ月間、新築の那須御用邸に滞在されました。同年12月25日、大正天皇崩御により時代は昭和へと移り

変わります。大正天皇の諒闇(喪)が明けた昭和3年夏に再びご静養され、その後の年も香淳皇后とともにご滞在になります。昭和9年9月を最後に中断となります。戦後の昭和22年8月に東北地方ご巡幸の帰路にお立寄りの形でご滞在され、その後、ほぼ毎年おいでになられるようになりました。



昭和49年8月22日、町の共同利用模範牧場を公式訪問された昭和天皇と皇淳皇后。当時の笹沼町長の案内で、牧場内の畜舎や農耕具などをご覧になりました。また、牧場周辺に点在する開拓農家の実情について説明を受けると、ひとつひとつうなずきながらお聞きになっていたといわれています。

那須御用邸の概要



天皇皇后両陛下が滞在なさる本邸の敷地面積は43,467.6㎡、東京ドーム1個分ほどの広さです。3階建ての御殿の総面積(付属建物を除く)は2,904㎡で、町のゆめプラザ・那須と同じくらいの面積です。また、付属邸として、皇太子同妃両殿下が滞在なさる御殿が昭和10年に建てられたほか、嚶鳴亭、澄空亭などの建物があります。敷地内には、御用邸警備を専門に行う皇宮警察本部那須御用邸皇宮護衛官派出所が設置され御用邸の平穩を守っているほか、隣接地には御用邸消防団詰所が設置され、有事に備えています。